



「躰」（しつけ）≡「身を美しくする」

「発言」（中日新聞）より

「あいさつ」 みんな元気に

田岡 魁哉（小学生：三重県伊勢市）11歳

僕はあいさつをするのが大好きです。ぼくの「おはよう」に、だれかが「おはよう」と返してくれると元気が出てきます。だから、知らない人にも積極的にあいさつをするようにしています。

ぼくが通う小学校の校長先生は、朝玄関に立ってみんなを迎えてくれます。「おはよう」と言うだけではなく、校長先生はあいさつで大事なことを教えてくれました。

「1つは自分からあいさつ、2つ目は笑顔であいさつ、3つ目は目と目を合わせてあいさつ…。この3つができるとみんなが元気になる」。

ぼくは最高学年の6年生になりました。みんなのリーダーなのだから、今まで以上に元気よくあいさつをしていくつもりです。そして、1年生がいつか、ぼくみたいな元気なあいさつができるようになったらいいなと思っています。

「履物そろえる」 余裕持つ

西沢 義博（僧侶：滋賀県近江八幡市）70歳

1日付本欄で、小学生の「スリッパをそろえよう」を読み、「履物をそろえると心もそろえ、心がそろえと履物がそろえ…」というフレーズがよぎった。私と同じ僧侶だった故 藤本幸邦さんの詩「はきものをそろえる」の一節だ。

藤本さんは「人間が修行する方法には、心からと形からの二つの方法がある。心から修行できる人はよほどの人であり、普通の人は形の方からやっていると心も整う」と述べている。乱雑に履物を脱ぐ人を目にすると、その人の日頃の品性が垣間見えるものだ。

茶道、華道、柔道、空手などにも形がある。何度も繰り返して形を修練することで、次第に心身双方が整っていく。履物をそろえる余裕を持てば、きっと心は整い品格も高まるだろう…

「躰」（しつけ）という漢字は、「身を美しくする」と書きます。この躰は、人間社会に必要なことを学ぶことです。ただ、躰は押しつけだと言って躰教育に反対する人がいますが、躰というものは子どもが将来、立派な社会人として生きるために必要な基本となるものであり、幸せに生きる社会人となるための生活行動基準だと思います。碁で言えば「定石」、柔道や剣道で言えば「型」、スポーツで言えば「基本」にあたるものです。これらをしっかりマスターしない限り、試合には勝つことはできないでしょう。躰なき社会人は、定石・型・基本を学ばずして試合をするのと同じで、どのように頑張ってみても、結果は見えています。たまたま運よく成功したとしても、一時期のものに過ぎないと思います。

これまで何度も森信三氏（教育哲学者）の提唱された「しつけの三原則」を紹介してきました。この実践が人を思いやる心を育て、人の模範になる人間になると信じています。